

---

# 仮面ライダーディケイド

桂 ヒナギク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド

### 【Nコード】

N8912Z

### 【作者名】

桂 ヒナギク

### 【あらすじ】

司の前に現れたキュレックスワーム。司が傍らにあったバックルを手にした時、その瞳は何を見る？

## 1・誕生

荒野で様々な仮面ライダーが戦いを繰り広げている。

その中にぽつんと一人佇む少女、山上<sup>やまがみ</sup> 洋子<sup>よっこ</sup>。

周囲で爆発が起こる。

「きゃっ！」

吃驚<sup>びっくり</sup>してしゃがみ込んでしまう洋子。

洋子の前に一人のライダーが現れる。

「デイケイド？」

夢はそこで終わった。

ベッドから起き上がる洋子。

「また同じ夢……？」

洋子はベッドを下りてトイレへと向かう。

(あの夢って何なの？ いつも同じ夢ばかり)

トイレを済ませ、洗面所へ行って顔を洗い、歯磨きをし、部屋に戻ってクローゼットを開けて寝間着からセーラー服に着替える。

着替えが終わったら一階のリビングへ行き、食卓に着く。

向かいの席には居候<sup>いそ</sup>の秋山<sup>あきやま</sup> 司<sup>つかみ</sup>が座っている。

「おはよう、司」

「ああ、おは洋子」

「……つまんない」

「そうか」

「これ全部、司が作ったの？」

「当然だろ」

「いただきまーす」

洋子は食事を始める。

「ところで洋子、何でセーラー服？ 今日<sup>けふ</sup>は休みだぜ」

「補習<sup>ほしゅう</sup>よ、ほ・しゅ・う」

「頑張れ」

一足先に食べ終わった司は席を立つ。

「洋子、俺出掛けてくるな」

「どこへ行くの？」

「君には関係ない」

司はそう言つと、リビングを出て玄関へ行き、靴を履いて山上家を後にする。

洋子は思った。

(何よ、あいつ)

\*

とある公園。

司はそこに居た。

時刻は午後三時。洋子の補習も終わっていた。

「司！」

洋子が司の下に現れる。

「洋子か。何でここに来た？ 補習は終わったのか？」

「うん、終わったよ。ここに来たのは司が居たからだよ」

「そうか」

その時、司と洋子の間に灰色のオーロラが現れた。

「何だこりゃ？」

洋子の後ろにもう一人の洋子が現れる。

「洋子、後ろ！」

「へ？」

洋子は背後を振り向いた。

「わ、私？」

もう一人の洋子は、「消えて」と言つと、仮面ライダーカブトのキュレックスフォームに姿を変えた。

「キュレックスワームだと!？」

司は目の前の出来事に驚いていた。

「洋子、その辺にバツクルとライドブツカー落ちてないか!？」  
辺りを見渡す洋子。

(あつた!)

洋子はバツクルの下へ駆け寄り、それを司に投げ渡した。

司はバツクルを見事にキャッチすると、それを腰に装着した。

バイクのエンジンのような音と共にライドブツカーが左腰に現れる。

司はライドブツカーからDECAD Eと書かれたカードを取り出し、バツクルに差し込んでサイドハンドルを閉じた。

「変身!」

ハ K A M E N R I D E D E C A D E }

司はそのマシンヴォイスと共に黒とマゼンタの仮面ライダーデイケイドへ姿を変える。

「よし!」

デイケイドは灰色のオーロラをすり抜け、キュレックスワームに攻撃を仕掛けるが、クロックアップで避けられてしまう。

「ちょこまかと!」

デイケイドはカードを取り出し、バツクルに差し込む。

ハ K A M E N R I D E K A B U T O }

電子音声と共にカブト・ライダーフォームに姿を変えるデイケイド。

Dカブトはカードを取り出してバツクルに差し込む。

ハ A T T A C K R I D E C L O C K U P }

0.01秒の出来事。Dカブトはキュレックスワームに攻撃を仕掛けて怯ませると、ライドブツカーからカードを取り出してバツクルに差し込む。

ハ F I N A L A T T A C K R I D E K A K A K A K A K A B U T O }

マシンヴォイスと共に回し蹴りをキュレックスワームに叩き込んで爆砕するDカブト。

カブトカードがデイケイドドライバーから飛び出し、カブトの絵が灰色のシルエットになると同時にデイケイドに戻るDカブト。

「絵が消えた？」

デイケイドの変身が解ける。

「司、今のはってデイケイドだよな？」

「何で知ってたんだ？」

「夢で見たのよ」

「ふーん」

司は八枚のカードを取り出す。

「みんなシルエットになってる……」

司は九枚のカードをしまった。

「取り敢えず帰るか。行くぞ、洋子」

司と洋子は帰路に就いた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8912z/>

---

仮面ライダーディケイド

2011年12月28日08時47分発行